

科目責任者 安富 順

授業担当者 前期：小島 智章、後期：安富 順

■教育目的（各クラス共通）

この講義では大学生またはいずれなる社会人として必須と思われる日本文学及び芸能に関する知識を習得することを目的とする。具体的には日本文学・芸能史に関する事項を理解、記憶してもらう。単なる暗記は苦痛である。が、覚えておかなければならないものが世の中にはある。それを知識もしくは教養という。無論、ここにいう教養とは他人にひけらかすためのものではない。我々一人一人が《個》として自律し、かつ他者との関係を築くためのものであり、畢竟それは生きるための《智慧》となるものである。

古代・中世・近世を代表する古典作品を取り上げ講読する。また近現代作品にも目を向けなるべく広く論じたいと思う。従って、講義内容は時に古典世界と近現代世界とを行きつ戻りつする。振り子の振れ幅がかなりあることを承知の上で受講されたい。さまざまな作品を読むことで、我々が生きる《今日》さらに《未来》について考えたい。

■学習到達目標（各クラス共通）

1. 日本文学・芸能史の必須事項の習得と理解
2. 日本文学・芸能史を日本文化史にまで広げ理解する
3. 日本列島に住んでいた先祖から今日のわれわれにまで伝承されている発想のスタイルを学ぶ

■授業内容

前期 No. 1～15：小島 智章

1. ガイダンス（講義の目的と概要）
2. 文学と芸能概論
3. 古代の芸能
4. 中世文学と能・狂言
5. 能・狂言作品講読
6. 能・狂言鑑賞
7. 近世文学と人形浄瑠璃
8. 浄瑠璃作品講読
9. 文楽鑑賞
10. 近世文学と歌舞伎
11. 歌舞伎作品講読
12. 歌舞伎鑑賞
13. 近代文学と演劇
14. 近代演劇作品講読
15. 近代演劇鑑賞

準備学習（予習・復習）：予習：講読・鑑賞する作品について、事前に概要を調べておく。／復習：講義で取り上げた作品を読み、関連する舞台を鑑賞することが望ましい。

成績評価方法：出席（10％）。各期とも出席を5回取り、それを2倍して10点満点とする。／試験（90％）。学期末に90点満点の筆記試験を実施し出席点を加算する。

教科書：特に指定しない。講義の際に適宜プリントをテキスト及び参考資料として配布する。

後期 No. 1～15：安富 順

1. 日本古代文学（1）：神話とはいかなるものか
2. 日本古代文学（2）：「古事記」－神々の世界
3. 祭り（1）：祭りは神々のパフォーマンス（1）
4. 祭り（2）：祭りは神々のパフォーマンス（2）
5. 物語文学（1）：物語文学の定義とその内容（1）
6. 物語文学（2）：物語文学を読む（1）
7. 物語文学（3）：物語文学を読む（2）
8. 物語文学（4）：物語文学を読む（3）
9. 中世文学の世界（1）：隠者の文学－鴨長明の自己発見「方丈記」の世界
10. 中世文学の世界（2）：南北朝動乱期の群像「太平記」を読む
11. 中世文学の世界（3）：隠者の文学－南北朝期のモラリスト兼好「徒然草」の世界
12. 中世文学の世界（4）：民衆の発想－お伽草子の世界
13. 近世文学の世界（1）：愛と官能－井原西鶴「好色一代記」
14. 近世文学の世界（2）：執着する人々－上田秋成「雨月物語」

15. 現代文学の世界：戦後文学史拾い読み

準備学習（予習・復習）：予習：講義内容関連作品・参考文献類を読むもしくは辞書・辞典・インターネットによりその概要等を予備知識として蓄えておく。／復習：講義内容にもう一度目を通し、その要点をまとめ把握しておく。

成績評価方法：出席（10％）。各期とも出席を5回取り、それを2倍して10点満点とする。／試験（90％）。学期末に90点満点の筆記試験を実施し出席点を加算する。

教科書：特に指定はしない。講義の際に適宜プリントをテキストおよび参考資料として配布する。